

## 研究フォーラム

### 「感情労働としてのケア」

2009.3.7 (土) 13:30~16:50

主婦会館プラザエフ

シンポジウム「ケアの仕事と感情のゆくえ」

中根成寿 (京都府立大学公共政策学部准教授)

志賀玲子 (舞台芸術プロデューサー、スペースALS-D主宰、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授)

榊原康博 (関町病院 看護科看護部長、)

コーディネーター：森村修 (法政大学国際文化学部教授)

今回のテーマ「ケアの仕事と感情のゆくえ」で私を与えられた内容は、臨床での

- ① 言葉によらない感情での患者、看護師間でのコミュニケーションの実際
  - ② 私自身、看護師と音楽療法士の両面での実際
- などであった。

### レジメ

- ① はじめに  
「感情を言葉にするのは難しい」
- ② エピソード1  
「歌っているときは出ないんだ」  
統合失調症患者、男性 (当時45歳) へのケアを通して、患者-看護師との感情についての考察
- ③ エピソード2  
「私、看護師失格!?!」  
女性看護師、男性患者を殴った事例を通して、患者-看護師との感情についての考察
- ④ エピソード3  
「この空気をしまっておきたい」  
食道がん末期患者への音楽療法を通して、音楽における感情についての考察
- ⑤ おわりに  
「私が音楽にこだわる理由」
  - ◆ 音楽は私たちの感情を動かすと同時に、そのとき存在していたシーン (場面) を心に焼き付ける道具、その鍵、呪文。
  - ◆ 音楽は人生の中で、自分らしく生きる、自分らしさを保つ道具。
  - ◆ 音楽は人を幸せにする道具。